

中和地区 3 市 1 町障害者自立支援協議会
 専門部会・プロジェクトチーム

専門部会名	シュウロウシエンブカイ
プロジェクトチーム名	就労支援部会
部会長名・チーム長名 及び所属機関	部会長：石井 貴之（2019年4月～10月） 鎌田 剛吏（2019年12月～ ） 所属：なら中和障害者就業・生活支援センター ブリッジ（石井） 生活支援センターなつつ（鎌田）
構成メンバー	行政（4）：葛城市、香芝市、大和高田市、広陵町 ハローワーク（1）：大和高田 特別支援学校（3）：西和養護学校、高等養護学校、大淀養護学校 相談支援機関（5）：しえ〜く、圏域マネージャー、ブリッジ 葛城社協、葛城市こども・若者サポートセンター 福祉事業所（9）：萌（おかわり、生活支援センターなつつ）、広陵町すみれ作業所、青垣園、今人、ひなた、ダイアリー、スペースかぐや Coco-Make 葛城
幹事市町 担当者名	広陵町 社会福祉課 佐々木氏・岸本氏
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関や就労支援機関の対話を重視し、ケース検討や情報共有を進めていく。 ・障がいのある方々が働き続けるために、就労に関する現状や地域における課題を協議する。
検討内容	<p>☆第1回部会（2019年5/21）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先調達について →HP への掲載の形式や、掲載する事務所の範囲について検討 ・行政実習 →受け入れにあたっての提案および各市町村の意向確認 ・企業見学会について →実施についての意見交換および見学先の検討。 <p>☆第2回部会（2019年8/22）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校卒業後の就労支援継続 B 型事業の利用について 大淀養護山本先生より話題提供 <p>【状況】 養護学校在学者に関して、就労に向けたアセスメントを行う必要があり、学校からの実習等でアセスメントを行っている。ただ、企業実習を通してのアセスメントに関しては、生徒自身が実習に行く意味合いが理解しづらい方もいるため、無理に企業にお願いしづらいというのが現状。また、障がいの特性上、実習などが困難な場合もあるため、在学中にどのように B 型利用に向けたアセスメント行うかが課題となっている。</p> <p>上記の内容に関して参加者と意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政実習 <p>今年度の取り組みに関して各行政より確認を行う。</p>

	<p>挙げた質問として、実習とは別に初等部や中等部の生徒を対象とした社会見学のようなものに行えないかの質問が挙げた。</p> <p>☆第3回部会 (2019年10/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業見学会について <ul style="list-style-type: none"> →候補地について意見集約 ・優先調達について <ul style="list-style-type: none"> →方向性の確認。情報を収集した後に自立支援協議会のHPにアップする。 ・就労アセスメントについて <ul style="list-style-type: none"> →直B問題の現状と解決策についての意見交換 ・行政実習の進捗状況 <p>☆第4回部会 (2019年12/18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業見学会について <ul style="list-style-type: none"> →候補地の選定。麦の里（和歌山県）を候補地として決まる ・優先調達について <ul style="list-style-type: none"> →進捗状況の確認。 就労部会に参加している事業所を対象に情報提供の案内を再度送付。 ・行政実習の進捗状況 ・就労アセスメントについて <ul style="list-style-type: none"> →直B問題の現状と解決策についての意見交換 ・65歳越えてのA型利用についての取り扱い <p>☆2020年2月～3月に企業見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県一麦会 <p>☆第5回部会 (2020年3/12 予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業見学の振り返り ・1年の振り返り
開催頻度	2ヶ月に1回実施
振り返りと 来年度に向けて	<p>今年度も以下の内容を柱として話を進めていった。</p> <p>①企業見学会 ②障害者優先調達法の推進 ③直B問題についての意見交換</p> <p>①については、これまで一般企業や特例子会社などを見学し、「障がいのある方が働く」ということが身近で行われているということを実感してもらった。ただ、参加者が各所属機関に持ち帰っても、日々関わる方と見学した先で働いている方の姿との解離を感じておられるようにも見られた。そのため、参加者がより身近に感じ、利用者・相談者の方の今後に反映していきやすいような情報を得られる見学先の選定を検討することも必要と感じている。</p> <p>②については、昨年度から引き続き検討し、今年度は主に本格的な具体策を提案し検討した。試みとして自立支援協議会のHPに圏域内にある就労系などの事業所の取り組みを掲載。それを基に行政機関からの仕事の依頼をもらっていく仕組みを作っていく。</p>

今年中にはHP掲載を行い、次年度では効果の検証をしていきたい。

③部会内で意見交換を行ったこともあり、各市町では学校で行っている実習を基に就労アセストにする動きがでてきた。

その他にも通年行なっている行政実習では、今年度は 名が参加。実施時期や実施場所など、参加者の希望を考慮して配置をしてもらっているため、より参加がしやすい機会となっている。就労に向けて最初の一步を踏み出す機会としても有効であるが、対象者が少ない市町村もあるため、今後継続的に実施するために、「圏域外事業所に所属しているが、3市1町内に在住されている方」への周知方法なども検討していく必要があると考えている。

ここ数年で、3市1町内の就労の課題について、具体策がでたりと解決に向けて進めている。

来年度はあらためて、この地域での就労についての課題を抽出し、共有をしていく必要がある。